

州干辨天と羽衣町の巖島神社

治承四年源頼朝が義兵を挙げ四海を統一してから、豆州土肥の杉山に鎮座しました辨財天を茗荷島（州干島）に移しまゐらせたのが杉山辨天、或は州干の地名をとつて州干辨天ともいひ



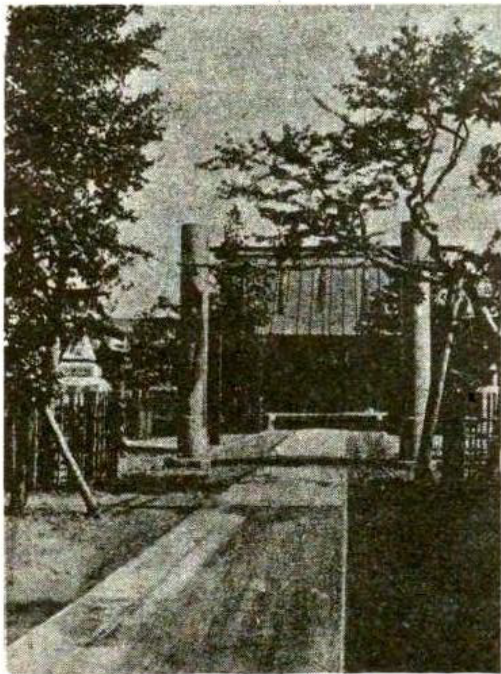
本尊州干辨天

里人は横濱村にあつたので横濱辨天とも稱へて居た。其後徳川三代將軍家光から社領六石一斗五合の御朱印を賜はつた舊横濱村の鎮守であり、横濱の歴史と離るべからざる關係を持つて居たものであるが、明治二年現在の羽衣町に移されてしまつた。社の詳しい事は記す迄もないが、只、辨天の舊地が少し誤り傳へられて居るから此の事だけを訂正して置く事にしよう。

社の敷地は辨天通六丁目から本町北仲通太田町に跨がつて考松に囲まれた一万二千餘坪の地であつた。今でこそ舊地として證據立てる様なものが一つもないが、震災前迄は横濱小學校の運動場其他附近に昔ながらの老松が數本残つて居た。

宮は五間四面の草葺で現在日下町にある春日神社と同型のものであり、其の位置は辨天通六丁目一〇九番地槌勝運送店の場所である、社の前には瓢箪形の池があつて胴の所に石の太鼓橋が架けてあつた、此の池は寛政頃に出来たといひ文久元年頃から埋立られ、和蘭領事館、日本の御役宅、其他境内に馬場などが出来た、御役宅が伊勢山に引き移つてから一部の地は海軍省のものとなり東海鎮守府が置かれ、これが明治十七年横須賀に移されてから宮内省に移管せられ御用邸となつた。

更らに横濱小學校、生絲検査所と随分目まぐるしい程變つたものである、池は満潮の時は魚の泳ぐのが見えたと云ふ程奇麗なもので、之れが州干港にそゝぐ處に野毛への五文渡しの渡舟場があつた、現在の本町六丁目七六番地風月堂のあるところが其の場所である。辨天社の鳥居は只一つ木製のもので現在の正金銀行と川崎第一百銀行との中間にあつて、正金が茲に移轉する迄あつたといふことである。



羽衣町巖島神社